

令和4年度

第4回 北杜市社会教育委員会・公民館運営審議会 会議録

日 時 令和4年11月4日（金） 午後1時30分～午後3時30分

場 所 須玉ふれあい館 2階会議室

出席者 丸茂 正、小泉育子、内藤雅人、赤岡けさみ、内藤久敬、板山國夫、植松利恵子、
藤森富士夫、進藤美紀、清水慎一、今井三津子、白砂 勇、原まゆみ、古澤武彦、
功刀美津子、北原正倫、進藤聡彦、日永龍彦

欠席者 清水もとみ、花谷泰広

事務局	教育長	輿水 清司
	教育部長	加藤 寿
	教育部参事	平井 ひろ江
	生涯学習課長	渡辺 美津穂
	社会教育担当リーダー	高柳 博基
	社会教育担当	小池 真美
	社会教育担当	古屋 俊樹

議 事 （1）北杜市生涯学習推進計画について
（2）令和5年度生涯学習講座について
（3）その他

公開・非公開の別：公開

傍聴人の数：なし

開会

1. 開会あいさつ（藤森社会教育委員会副議長）
2. 会長あいさつ（内藤公民館運営審議会会長）
3. 教育長あいさつ（輿水教育長）
4. 協議事項（板山社会教育委員会議長）
 - （1）北杜市生涯学習推進計画について
 - （2）令和5年度生涯学習講座について

(3) その他

5. 閉会あいさつ（赤岡公民館運営審議会副会長）

（事務局）傍聴人のいないことを確認し議事に入る。

（議長）協議事項（1）北杜市生涯学習推進計画について、提案をお願い致します。

（事務局）北杜市生涯学習推進計画について説明する。

（議長）ご質問ありますか。

（委員）「つながる」はひらがなや漢字が混在しています。

（議長）事務局お願いします。

（事務局）最近の傾向から、ひらがな表記でもいいと思っています。3つのキーワード「まなぶ　いかす　つながる」はひらがなで統一します。

（議長）よろしいですか。

（委員）「生かす」と「活かす」の整合性を確認してください。

（議長）事務局お願いします。

（事務局）名詞で使うときはひらがな表記で、文章として使うときは漢字表記にします。「活かす」で統一します。

（議長）ご質問ありますか。

（委員）評価指標の中には、成果に関する指標と取り組みに関する指標の2種類あります。成果指標だけになった理由を教えてください。また、取組指標は行政が行ったことで、成果指標は市民活動の変化と区別すると、評価指標は市民活動の変化が大半です。そのなかで「まなびの杜の発行回数」だけ取組指標です。それとも区別はしないのでしょうか。

（議長）事務局お願いします。

(事務局) 行政でも、成果指標と活動指標と2種類あります。今回は市が発信したものについて、市民がどれだけ反応してくれたかを考えていきます。「学習情報の提供」の指標は難しい部分があります。「まなびの杜の発行回数」は例示です。

(委員) 成果指標でいくと、ここに表記されているものは、ほとんど良いと思っています。評価をする時は、具体的な施策の事業点検と一緒に行うと思います。ただ、指標設定の仕方ですが、人口が減っていく中で、人数が伸びなくても、実質的な参加者数は増えているかもしれません。割合や人口比の方が正確な評価ができるかもしれません。

(議長) 事務局どうぞ。

(事務局) 基本目標や基本施策の中には満足度やパーセンテージでの指標もいいものもあります。

(委員) 北杜市の人口は急激に減っていきます。同じ人数でも割合は増えてるという評価もできます。人数だけでは目標に到達しないという評価になる場合もあります。KPI は数値で判断をします。社会の変化も勘案した指標の方がいいのではないのでしょうか。

(議長) お願いします。

(事務局) 状況を勘案して適したものを精査していきます。

(議長) よろしいでしょうか。

(委員) 数値だけでなく自由記述もあります。読む人に伝わるためにはパーセンテージで書くのか文章で書くのか事務局に考えていただければと思います。

(議長) 事務局どうぞ。

(事務局) 北杜市の計画なので、主に市民向けに推進していきます。市民に限らず市内外の方を取り入れていくために情報発信や創意工夫をしていきます。関係人口や生涯学習以外の相乗効果を勘案しながら目標設定をします。

(議長) どうぞ。

(委員) 「社会参画」ですか。それとも「社会参加」ですか。それぞれ意味が違います。

(議長) どうぞ。

(事務局) 今回の計画では「参画」が適していると思います。

(議長) よろしいでしょうか。

(委員) 「とりくみ」が「取組」や「取組み」があります。表記を整えてください。

(議長) どうぞ。

(事務局) 名詞での使い方は確認します。動詞では「取り組み」です。

(議長) よろしいですか。

(委員) 3ページの「特例措置の終了よる」は「特例措置の終了による」でしょうか。4ページの「学習意欲子育てや仕事に迫られる若年層」は学習意欲の後に何か入りませんか。

(事務局) 学習意欲と子育てと仕事が並列になります。

(議長) よろしいですか。

(委員) 対象者が北杜市民に限らないということで、パーセンテージについて取り消そうと思います。市外からどのくらい参加しているのかわかるのでしょうか。「学習情報の提供」の指標になりうると思います。

(議長) 事務局お願いします。

(事務局) 市内外の集計は可能です。市外の方がどれくらい関心を持っているかは重要なことです。

(議長) どうぞ。

(委員) 満足度は評価に含まれますか。

(議長) 事務局お願いします。

(事務局) これまでの生涯学習計画は、生涯学習課の計画しか作っていません。成果指標もありません。市の目標値は事務事業評価の中で目標設定をします。この計画は市全体を網羅していますので、一律では難しいです。毎年アンケートを取るのも難しいです。参加者数という実績で設定しなければなりません。満足度を全体の目標にするのは難しいです。個々にアンケートを取るしか方法がないと思います。

(議長) よろしいですか。

(委員) とても良い催し物があっても台風とかで参加者数はぐっと減りますよね。その影響もあるので、数字では表れないものも承知しないといけないと思いました。

(議長) 他にありますか。どうですか。

(委員) パーセンテージを出せば目標値になると思います。

(議長) いろんな意見を聞いてみます。

(委員) 数字で出せば達成度は考えやすくなりますが、学習や人とのつながりは数字では表れないものです。何もなくていいのかとなると難しいですが、数字で表すことで本当の意味での成果が見えなくなります。

(議長) どうぞ。

(委員) 人数や開催数での評価は妥当と思います。

(議長) お願いします。

(委員) 38ページの基本理念に誤字があります。修正してください。基本目標に数値を出すのは難しいので、計画通りでいいと思います。

(議長) どうぞ。

(委員) 目標値は設定しないとダメですか。評価指標は指標を取り続け毎年検証することで十分だと思っています。目標値があることで、うまくいかないと事業が捻じ曲がる場合があります。目標値に合わせるため本来の目的からずれていきます。KPI とすると目標値は必須ですが、成果指標だけにして KPI を書かずに、この数字で毎年検証して、基準値はここだ、というやり方ではダメだったら仕方ありません。成果目標の値を出すと見えなくなったりゆがんだりします。目標がうまくいってるかどうかを判断するために数量的なデータといろんな事情、定性的な情報を加味して最終的に目標を判断するのが評価です。数値をベースにいろいろ加味して評価し検証していくのがいいと思います。

(議長) お願いします。

(委員) 評価するには目標値があったほうがいいと思います。一方でそういうものがないと自由記述にかなり書き込まなければならない危惧はありませんか。恣意的になりませんか。

(委員) 毎年検証していくんですね。1 2 年度の目標値ですが、その間は何で評価するのでしょうか。目標値は1 2 年度だけです。毎年検証するときの基準値は何にするんですか。

(委員) 目標値の前年とかでしょうか。

(委員) この数値を毎年見ながら勘案して今年の進捗状況を判断すればいいのではないのでしょうか。データだけでは表れない部分があります。前年度比で見ていくのであれば最初から1 2 年度の目標を明確に定める必要があるのでしょうか。

(委員) 絶対評価と相対評価の違いですね。

(委員) 絶対的な基準がありません。

(委員) 事務局で目標を設定して、1 2 年度には達成したいという願いみたいなものを、それに向けて頑張っていくわけだから評価はあるべきだと思います。

(議長) どうぞ。

(委員) 令和12年度の目標値を今時点で定めるのは先の事だと思います。目標値の作り方は議論が必要です。答申の中に入れるかどうかは、待った方がいいように思います。

(議長) どうぞ。

(委員) 目に見えるためには数値が必要だと思います。基準値があって、どういう経過をたどっていくかという意見に賛同します。目標があってもいいのかもしれませんが、今時点の目標値は難しいと思います。

(議長) どうぞ。

(委員) 3年度の基準値があって12年度に目標値がある。1年ごとの人数を見ていくと努力が現れると思います。

(議長) どうぞ。

(委員) 評価の意義と限界について議論されたと思います。評価は客観的であるので数字を中心にせざるを得ません。回数人数による評価をするが、アンケートの記述とか台風があったとか記述しながら総合的に所見に生かせばいいと思います。目標値については12年度の物だけを出すのは考え直した方がいいと思います。

(議長) どうぞ。

(委員) 数字で表すのも大事だと思います。人口減少でも参加者数をパーセンテージで表すと増えているかもしれないというのが印象的でした。目標値があった方がいいかどうか判断が付きません。

(議長) どうぞ。

(委員) 数で比較することは大事です。来年どうするか、どんな内容にしていくかを、毎年積み重ねていけばいいと思います。12年度の数値を決めるのは難しいです。

(議長) 事務局はどのようにお考えですか。

(事務局) 総合計画の前期基本計画が中間年度の7年度に見直しがされるので、7年度までの目標値として総合計画の前期基本計画と整合性を図り、この計画も目標値を7

年度に設定して、総合計画の見直しの際に、改めて12年度を設定するというのもひとつの方法です。あるいは7年度も設定せず基準値で毎年検証するのもひとつです。

（議長）7年度にするか全く載せないかということですね。

（事務局）社会教育委員会議からの答申となります。市教委としては答申を受け、さらに状況分析をしながら答申を計画に反映していきます。答申を参考に市は計画を練りこんで、目標値の設定も市で協議していきます。

（議長）どうぞ。

（委員）総合計画で人口計画が入っているはずですよ。それを加えて、率で算出していくのもひとつの方法だと思います。

（議長）どうぞ。

（委員）来年どうなれば目標達成なのか、根拠は何かを考えないと示しようがありません。

（委員）おっしゃるとおりです。目標値は設定すべきだと思います。

（議長）お願いします。

（委員）目標値を定めたときに、なぜ妥当なのか説明せよということですね。今時点だと難しいと思います。

（委員）数字だけがでるのか、数字を見ながら記述的に評価するのでしょうか。目標値は翌年どのくらいにするか公表されますか。

（事務局）目標値の設定はどれが正しいかわかりません。直近の推移や増減を勘案していきます。市が予算措置をしたり、物理的に措置することもできます。数値化が難しいのであれば、文章での目標も方法のひとつだと思います。

（議長）何かご意見ありますか。

（委員）文章で書かれているものはすでにこの中に入っているということではないですか。

具体的な施策や方向は書いてあります。評価するときにはどういうデータを使うかという議論をしています。基準値があって、自分たちではどうしようもない部分が成果指標として上がっています。取り組みをしたからといって増えるかどうかはわかりません。今設定されている成果指標で基準値よりも少しでも良ければ、いい方向に向かっているように見えます。目標に近づいていることになります。数字の若干の上下で単純に見れないのも確かです。対基準値で毎年検証していけば、行政の施策を受け、市内外の方が参加してくれたことを成果指標で上げているから基準値が向上すれば目標に近づいているという判断になります。

（議長）どうぞ。

（委員）社会教育委員会議で評価するので前年度より多いということを目標にして評価していき、最終年度にはしっかりした評価ができればいいと思います。実情に合っているように思います。

（議長）文章より数字の方がいいということですね。

（委員）数字を見ながらこの場で単年度の評価をしていくということです。まとまった単位で市民に公表するのが、実情に合っていると思います。

（議長）どうぞ。

（委員）参加人数が少なくてもみんなニコニコして楽しんでもらえたら、それでいいんです。数字に表れない血の通った部分が、市長を動かしたり議会の流れを変えたりしないと、この会議は虚しいものになります。数字の上下だけの評価ではありません。

（議長）どうぞ。

（委員）数字と数字の比較だけで評価されるのは嫌だと言っています。そういう評価にしたいがありません。行政の掲げる計画の中に数量的なものを見ないで評価するのは通らないと思います。教育の評価は数値で測れると思っていません。今回定められた成果指標は、少しずつでも数字が上がっていけば取り組んでいく施策がうまくいったという判断のきっかけになります。数字が下がっても状況を勘案しつつ、事業の判断をします。数字だけでの比較で簡単に評価したくありません。

（議長）事務局お願いします。

(事務局) 目標値を設定するのではなくて活動指標のような基準値を決める中で、毎年度 PDCA をします。事務局がこの場で報告して、コロナや天候等の状況を加味し、3 年度の基準値に対してどういう推移をしたかを社会教育委員会議で意見をいただいて予算編成や事業に反映をしていきます。7 年度や 12 年度の目標値の話ではないと理解しています。

(議長) 目標値の項目をなくすということですね。

(事務局) 活動指標的な基準値を設けて毎年度この場でチェックすると理解しています。

(議長) 何かありますか。

(事務局) 基本目標か基本施策かどちらで目標設定をするか決めていただきたいです。

(議長) 何かご意見ありますか。

(委員) 定期的に見直しをするならば基本施策単位でしょう。目標レベルだと数字が少ないのでざっくりとした評価になるので、施策レベルがいいと思います。

(委員) 基本施策単位がいいと思います。いろいろな部署にわたるので現実的にできるかどうか気になりました。

(議長) どうぞ。

(事務局) 我々がコントロールできるものを設定するつもりです。

(議長) 施策単位の方が良いという意見が多いですが、いかがでしょうか。では基本施策単位に決まりました。ご意見どうぞ。

(委員) 冒頭の「いかす」の件は「生かす」が良いと言いました。

(議長) 事務局よろしいですか。

(事務局) 調べさせてください。

(議長) どうぞ。

(委員) SDG s の画像は日本語表記がいいと思います。

(議長) よろしいですか。

(事務局) 日本語のロゴがあるのでそちらを採用します。

(議長) 他にありますか。

(委員) 意識調査の正しい名称は答申案の 1 ページの標記でよろしいでしょうか。

(事務局) 正しくは「北杜市における生涯学習に関する意識調査」です。

(議長) よろしいですか。続いて協議事項(2) 令和5年度生涯学習講座についてお願いします。

(事務局) 令和5年度生涯学習講座について説明する。

(議長) ご意見ありますか。続いて協議事項(3) その他についてお願いします。

(事務局) その他について説明する。

- ・ 関東甲信越静社会教育研究大会山梨大会について
- ・ 配布物について

(委員) 山梨大会の2日目の帰宅時間は何時頃でしょうか。

(事務局) 13時過ぎと思います。

(議長) 他にありますか。以上で終わります。

閉会(午後3時30分)